

「ゼロから考える少子化対策プロジェクトチーム」 緊急アピール

経済不況の影響もあって、都市部を中心に待機児童が急増するなど、保育の受け皿不足が深刻になっています。現在、保育制度の改革について議論されているところですが、現状の政策枠組みの中でも、早急に可能な限り子育て環境を改善し、国民が安心して子育てができるよう、小淵優子少子化対策担当大臣から「安心こども基金」の大幅増額などを含む「子育て創生&安心プラン～待ったなしの少子化対策～」(平成21年4月14日)が発表されたところです。

「ゼロから考える少子化対策プロジェクトチーム」として、「安心こども基金」の財源が各自治体や関係者において子育て環境の改善のために有効に使われ、「子育て創生&安心プラン」の内容が実効性ある施策として早急にかつ確実に実施されるよう、強く求めると同時に、とりわけ下記の点に留意すべきであることを要望いたします。

- * 待機児童がいる自治体は、認可保育所の定員やクラス編成を弾力化し、受け入れ児童を増やすこと。
- * 保育ママや保育所の分園など小規模で設置が容易な受け皿を早急に増やすこと。
- * 公共施設の用地や商店街の空き店舗、定員割れの幼稚園など既存の施設を利用して機動的に保育所を増やすこと。
- * 幼稚園の預かり保育や認定こども園を拡充すること。
- * 待機児童などの受け皿になっている認可外施設の質の向上や受け入れ増加のために積極的に支援をすること。
- * ファミリーサポートセンター、子育て支援センターなど地域の子育て支援を拡大するとともに、多様な主体の参加により、地域の子育て力の向上を図ること。
- * 病児保育・夜間休日保育を早急に整備すること。
- * 保育をになうすべての職員に一定の研修と待遇を保障し、保育従事者を増やすこと。
- * ひとり親家庭、経済的に困難を抱える家庭・児童養護施設の退所者などに対して、きめ細かな支援をすること。
- * 父子家庭にも母子家庭と同様の支援を行うこと。
- * 不妊治療への経済的支援の充実を図ること。
- * 地域の周産期医療体制を早急に整備すること。

以上

平成21年4月21日

ゼロから考える少子化対策プロジェクトチーム
安藤 哲也
勝間 和代
松田 茂樹
宮島 香澄
佐藤 博樹

「ゼロから考える少子化対策プロジェクトチーム」立ち上げにあたり

平成21年1月20日

少子化対策担当大臣

小渕 優子

ゼロから考える少子化対策

プロジェクトチーム

安藤 哲也

勝間 和代

松田 茂樹

宮島 香澄

佐藤 博樹

私がこのプロジェクト（以下PT）を立ち上げようという思いに至ったのは、子育てに関する多くの「なぜ？」に出会ったからに他なりません。私自身の体験や周囲の友人の声ばかりでなく、少子化対策担当大臣というお役目をいただき、さらに多くの方々のお話をお伺いする中でその「なぜ？」は私の中で拡大するばかりでした。

－なぜ、こんなに不安を感じながら出産・子育てをしなくてはならないのだろう。

－なぜ、一人で働きながら、子供を育てることがこんなにも大変な社会なんだろう。

－なぜ、結婚もしたい、子どもも産みたいという当たり前の希望がなかなかかなえられないのだろう。

私がお話した方の一人は、「子育てが辛い」と言って涙しました。もちろん子育てには大変な面もありますが、子の笑顔に触れ、その成長を喜び、親である私たち自身も学び、お互いに感謝や愛情を紡いでいくものがその日常だと思えます。しかし、今この国は、子育てそのものを自身の喜びとして素直に受け止めることがなかなかできない状況にあるのではないのでしょうか。

そのようなことを強く感じ始めた時がまさに5年に一度の「少子化対策大綱」の見直しの時期でした。日本にとって、これからの5年はこれまでの5年とはまったく意味の違う時間になると思います。子育て支援も含めた社会保障のあり方をめぐる議論も今後かなり活発化してゆきます。少子化に目を転じると、第2次ベビーブームに生まれた世代が40代を迎える時期でもあります。

私は、強い危機感を覚えました。もっと少子化について国民のみなさまと共通の理解を得て、改めて将来のあるべき姿を示していかなくては、本当に手遅れになってしまうのではないかと。私自身は少子化問題は、子供を持ちたいと思っている皆さんや、産み育てることに直面している方々だけでなく、世代を超えて日本に暮らす誰もが「今自分自身に何ができるか」を考えていかなくてはならない問題と強く考えています。

大臣になった時、私は「みなさまと共に悩み、共に歩む大臣でありたい」と述べました。このPTも様々なことに悩み考え、一緒に答えを見つけていくプロセスを国民のみなさまと共有したいと考えています。集まっていた委員の皆さんには私のこの問題意識を理解していただき、同じ危機感を共有しています。

私たちの思いと覚悟をどうかご理解頂き、子どもたちの笑顔のあふれる日本の未来を築いていけるよう、皆様のご理解とご協力を切にお願い申し上げます。